

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人 本城学園 本城西幼稚園

1 本園の教育目標

本城地域の環境を生かして『感動の教育』を実施し、『元気・根気・勇気のある子』の素地を育む。

2 本年度の重点的に取り組む目標・計画

- (1) コロナ禍により制限された保育環境の中で、子ども達が生き生きと活動する教育課程の編成とその実践
- (2) 子どもたちの気持ちを受け止め、成長を支えるために心を尽くし協働する園務組織の構築とその機能化
- (3) 家庭や地域と共に子どもを守り成長を支え、信頼され開かれた幼稚園の継続とその深化

3 評価項目の達成及び取り組み状況（一部抜粋）

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価項目	評価	取り組み状況・結果
保育内容の工夫改善や開発	A	保育内容については、コロナ禍で対応した実践を整理して、次年度に生かせる内容を得ることができた。コロナ禍の中でも園児や保護者にとって何が良いか必要かを職員・保護者の会と協力して工夫して保育にあたることも出来た。
教師としての資質や能力の向上	B	保育指導にあたっては、PDCAサイクルに乗っ取っての実践に努め教師としての資質や能力の向上に努めた。しかし、研修については、個々人において差がみられた。また、全体での研修の機会をあまりもつことができなかったため、来年度は計画的に研修を行っていきたい。
幼児の見取りと理解・対応	A	職員は、子ども一人ひとりを丁寧に見とっていく対応してきた。子どもが何を伝えたいのかを時間をかけて聞き取っている。また、子ども間でトラブルが起きた時は両者の話をじっくりと聞き取って自分の思いを自分なりの言葉で相手に伝え合うことができるよう促し、両者が納得いくまで話を行わせている。
健康と安全への配慮	B	消毒・手洗い等々の感染予防対策を徹底し、登園してくる子ども達一人ひとりの健康状態を必ず確認するよう保護者にも協力を求めてきた。怪我などが発生しない為の約束を活動前にその都度行い、発生してしまった時は他の教師と連携して発生状況把握を行うとともに適切な治療を行うことなど努力している。

4 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

評価	理由
B	本園では、教師一人ひとりが8項目について個別の自己評価を実施して、課題意識をもたせている。学期ごとに反省会をもち、次学期や次年度取り組みの方向性を見いだす様に努めている。しかし、個人による達成度については一考の余地がある。

5 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
保育内容の改善	コロナ禍あけを見据えた各活動に対する反省を行い、保育内容の改善を実施する。
効率的な園務運営	園務分掌組織を見直し、教師各人がその職務を果たすよう各種計画書等の整備を推進する。
特別支援教育	関係機関との連携、自己研修により、個々に応じた個別の指導計画作成に努める。

6 学校関係者評価委員会の評価

- 今年度もコロナ禍という状況で、子ども達のことを常に一番に考えて保育を実践していることは評価できる。
- 三密を避けて、感染拡大防止策をとって活動実施がなされ、保護者の満足度も高まっていることがうかがえる。コロナ禍あけでも良い点は引き続き行うことが必要である。
- 特別支援教育については、関係機関との連携がきちんととれていて、個に応じた支援が行われている。
- 送迎バス等についての危機管理についても、様々な危機場面を想定しているため保護者は安心だと思う。

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員

学校関係者評価委員  
委員会実施日

令和4年 3月28日